

2013（平成25）年度

事業報告書

自 2013（平成25）年4月 1日より

至 2014（平成26）年3月31日まで

学校法人 九州ルーテル学院

目次

1. 学校法人の概要	1 ページ
1.1 建学の精神	1 ページ
1.2 学院の沿革	1 ページ
1.3 設置する学校・学部・学科等	2 ページ
1.4 学生・生徒・園児の状況	3 ページ
1.5 役員の概要	4 ページ
1.6 評議員の概要	5 ページ
1.7 教職員の概要	6 ページ
1.8 組織図	8 ページ
2. 事業の概要	
2.1 大学・大学院	9 ページ
2.1.1 学生確保 2013 年 入試結果	
2.1.2 就職	
2.1.3 教育体制	
2.1.4 障害学生サポート	
2.1.5 宗教教育	
2.1.6 大学院	
2.2 中学・高校	10 ページ
2.2.1 教育環境の整備	
2.2.2 教学内容＜中学校＞	
2.2.3 教学内容＜高校＞	
2.2.4 教学内容＜中学・高校共通＞	
2.2.5 企画事業	
2.3 幼稚園	14 ページ
2.3.1 園児の動向と将来計画	
2.3.2 キリスト教保育の充実と教師の資質向上	
2.3.3 特別支援教育の充実	
2.3.4 学校評価の充実	
2.3.5 認定こども園の動向	
2.4 法人及び事務部門	15 ページ
2.4.1 事務部門全体	
2.4.1.1 サービス向上	
2.4.1.2 業務改善	
2.4.1.3 成長	
2.4.2 法人運営	
2.4.2.1 広報	
2.4.2.2 人事労務	

2.4.2.3	施設・環境整備	
2.4.2.4	阿蘇山荘	
2.5	宗教教育	17 ページ
2.5.1	学院の宗教活動	
2.5.2	大学における宗教活動	
2.5.3	中学・高校における宗教活動	
2.5.4	幼稚園における宗教活動	
2.6	入試結果・入園入学状況	18 ページ
2.7	卒業生数及び進学・就職状況	20 ページ
2.7.1	2013年度卒業・卒園数	
2.7.2	2013年度卒業生の進学・就職の状況	
2.7.2.1	中学校	
2.7.2.2	高等学校	
2.7.2.3	大学	
2.8	施設等の状況	22 ページ
2.9	年間行事	24 ページ
2.10	その他	26 ページ
2.10.1	当該年度の重要な契約	
2.10.2	係争事件の有無と経過	
2.10.3	決算日以降に生じた重要な事実	
3.	財務の概要	27 ページ
3.1	決算の概要	27 ページ
3.1.1	貸借対照表の概要	
3.1.2	資金収支計算書の概要	
3.1.3	消費収支計算書の概要	
3.2	経年比較	32 ページ
3.3	主な財務比率比較	33 ページ
3.3.1	貸借対照表関係比率	
3.3.2	収支計算書関係比率	
3.4	その他	37 ページ
3.4.1	有価証券の状況	
3.4.2	借入金の状況	
3.4.3	学校債の状況	
3.4.4	その他	
3.4.4.1	寄付金の状況	
3.4.4.2	収益事業の状況	
3.4.4.3	関連当事者との取引	
付録	学校会計について	38 ページ

1. 学校法人の概要

1.1 建学の精神

学院標語（学訓） 感 恩 奉 仕

学院聖句 わたしが来たのは、羊が命を受けるため、しかも豊かに受けるためである。
(ヨハネによる福音書 10 章 10 節 b)



本学院の校章は、中心部は図案化されたバラの花が置かれ、バラを囲む三角で縁取りされている。三角の型は、キリスト教会には馴染み深いシンボル・三位一体の神に由来するものだが、学院では学校の人間育成・教育の課題である「知育・徳育・体育」を表すものとして扱ってきた。

中心部におかれたバラ模様はルター派教会のシンボルである。

「純粋」を表す白いバラ模様の中心には、ルター紋章では赤いハートに十字架を刻み、キリストの十字架の心が記されているが、学院紋章では「赤い丸」に単純化されている。それは単純化と云うよりは「キリストの十字架の血」に置きかえられたものである。その「一点」こそが、学院の原点であり、それは「霊育」という原点である。

「霊育」を原点とし、そこに支えられて「知育・徳育・体育」による人間形成が営まれる学府を「校章」は謳っている。そこから生まれる人間が「神の恩寵（恵）に感謝し、神と人に仕える」「感恩奉仕」に生きること目標を置くところに学院の使命と伝統がある。

1.2 学院の沿革

1908 年	米国ペンシルベニア州のインマヌエル・ルーテル教会で、「日本に女子学校を作るために」5ドルが献金された。
1921 年 9 月	北米一致ルーテル教会婦人伝道局総会で、日本に女子学校建設を決議。
1922 年	日本のルーテル教会第 3 回総会で、女子学校設立を決議。
1923 年 1 月	米国婦人伝道局が 17 万 5 千ドルを目標に募金運動開始。2 年間で延べ 30 万人から 25 万 6182ドルを募金。特に、オハイオ州のジェームズ夫妻は、日本への宣教師を夢みて 8 歳で夭折した娘ジャニスのために特別多額を寄付。新しくできる学校は、「Janice James School」と呼ばれることになった。
1925 年 12 月	私立学校認可申請を熊本県知事に提出、翌年 2 月認可。
1926 年 4 月	九州女学院開校。初代院長マーサ・B・エカード
1928 年 10 月 3 日	専門学校入学者検定規定による文部大臣指定(この日が創立記念日)
1931 年 2 月	修業年限 5 箇年指定(高等女学校高等科入学資格)
1931 年 3 月	第 1 回卒業式
1941 年 11 月	九州女学院財団法人設立 校名は九州女学院高等女学校となる

1943 年 4 月	四年制高等女学校となり校名を清水高等女学校と変更
1946 年 3 月	同窓会「のいばら会」発足
1946 年 4 月	五年制高等女学校へ復帰 校名は九州女学院高等女学校となる
1947 年 4 月	九州女学院中学校(新制)を設置
1948 年 4 月	九州女学院高等学校(新制)及び九州女学院幼稚園を設置
1975 年 1 月	短期大学設立認可
1975 年 4 月	九州女学院短期大学[英語学科、児童教育学科]開学
1996 年 12 月	大学設立認可
1997 年 4 月	九州ルーテル学院大学[人文学部人文学科]開学
1998 年 3 月	短期大学閉学
2001 年 3 月	野々島グラウンド落成
2001 年 4 月	中学・高等学校を男女共学とし、ルーテル学院中学・高等学校と校名を変更。法人名を、九州女学院から九州ルーテル学院に改名
2001 年 7 月	中学高校男子寮竣工
2002 年 10 月	大学 4 号館竣工
2002 年 7 月	菊南グラウンド落成
2004 年 4 月	大学に[心理臨床学科]開設
2005 年 3 月	学生自治会・部室棟(学生ホール)竣工
2006 年 4 月	大学に大学院(修士課程)人文学研究科障害心理学専攻開設
2007 年 4 月	大学人文学部人文学科にキャリア・イングリッシュ専攻とこども専攻を開設
2009 年 4 月	大学が大学基準協会認証評価適合
2010 年 4 月	大学に小学校教諭一種免許状の課程開設
2013 年 4 月	認可外保育施設ルーテル学院幼児園開設

1.3 設置する学校・学部・学科等

設置する学校	開校年月	学部・学科等	摘要
九州ルーテル学院大学	1997 年 4 月	人文学部人文学科	
	2004 年 4 月	人文学部心理臨床学科	
九州ルーテル学院大学・大学院	2006 年 4 月	人文学研究科障害心理学専攻	
ルーテル学院高等学校	1948 年 4 月		
ルーテル学院中学校	1947 年 4 月		
ルーテル学院幼稚園	1948 年 4 月		
ルーテル学院幼児園	2013 年 4 月		付随事業

1.4 学生・生徒・園児の状況

①在籍者数

2013 年 5 月 1 日現在

単位: 人

学 校	学 年	学科		定員数	クラス数	園児・生徒・学生数	
						学科別計	合 計
幼稚園	満 3 歳児			50	2	2	2
	3 歳児					43	43
	4 歳児			50	2	49	49
	5 歳児			50	2	57	57
	計			150	6	151	151
中学校	1 年			80	2	49	49
	2 年			80	2	65	65
	3 年			80	2	62	62
	計			240	6	176	176
高等学校	1 年			320	9	372	372
	2 年			320	8	275	275
	3 年			320	8	315	315
	計			960	25	962	962
大 学	1 年	人文	保育	30	2	33	193
			児童教育	10	1	21	
			キャリア	35	2	40	
		心理臨床		75	4	99	
	2 年	人文	保育	30	2	31	180
			児童教育	10	1	24	
			キャリア	35	2	43	
		心理臨床		75	4	82	
	3 年	人文	保育	30	2	35	187
			児童教育	10	1	21	
			キャリア	35	2	44	
		心理臨床		75	4	87	
	4 年	人文	こども	40	2	53	205
			キャリア	35	2	57	
		心理臨床		75	4	95	
	長期履修学生	人文	内数(5)		－	2	17
		心理臨床	内数(5)		－	15	
計				600	35	782	782
科目等履修生、研究生				－	－	12	12
大学院	1 年	障害心理学専攻		5	－	5	8
	2 年	障害心理学専攻		5	－	3	
	計			10		8	
	研究生、科目等履修生				－	－	2

1.5 役員の概要

職名又は 担当職務	フリガナ 氏 名	常勤・ 非常勤 の別	就任年月日	備 考
理事長	サカナ ノブヨシ 坂根 信義	非常勤	2002 年 6 月 24 日	理事長就任 平成 16 年 10 月 25 日
理事	キヨシゲ ナオヒロ 清重 尚弘	常勤	2002 年 4 月 1 日	院長・学長
理事	ハヤシダ ヒロフミ 林田 博文	常勤	2012 年 4 月 1 日	中学高校長
理事	オ ダ アキコ 尾田 明子	常勤	1998 年 10 月 20 日	幼稚園長
理事	ヤマグチ ハツコ 山口 初子	非常勤	2007 年 9 月 28 日	元熊本ライトハウス・のぞみ ホーム施設長
理事	ナガオカ リュウイチロウ 長岡 立 一郎	非常勤	1998 年 10 月 20 日	九州学院理事長
理事	オ ホ イクコ 於保 郁子	非常勤	2004 年 10 月 1 日	元めぐみ幼稚園長
理事	シオタニ ヨシヨ 潮谷 義子	非常勤	2012 年 4 月 1 日	日本社会事業大学理事長
理事	フルヤ シロウ 古屋 四朗	常勤	2008 年 4 月 1 日	事務局長
理事	フクダ クニコ 福田 邦子	非常勤	1995 年 7 月 10 日	のいばら会顧問 愛育会福田病院理事
理事	ハッタ サトコ 八田 智子	非常勤	2006 年 10 月 1 日	のいばら会顧問
理事	ヨネザワ フサトモ 米澤 房朝	非常勤	2001 年 5 月 30 日	ヨネザワ社長 清水学園理事長
理事	イチカワ カズヒロ 市川 一宏	非常勤	2004 年 10 月 1 日	ルーテル学院大学教授
理事	イシハラ ヤスナリ 石原 靖也	非常勤	2006 年 4 月 1 日	東光石油会長
監事	カワサキ タカオ 河崎 隆夫	非常勤	2008 年 10 月 1 日	元日本福音ルーテル教会九 州教区事務所主事
監事	テラモト ユキヨシ 寺本 行義	非常勤	2008 年 10 月 1 日	元リデル、ライト両女史記念 館館長□

1.6 評議員の概要

氏 名	就任年月日	備 考
坂根 信義	2002 年 6 月 24 日	理事長
山口 初子	2007 年 9 月 28 日	元熊本ライトハウス・のぞみホーム施設長
長岡 立一郎	1998 年 10 月 20 日	九州学院理事長
於保 郁子	2004 年 10 月 1 日	元めぐみ幼稚園長
潮谷 義子	2012 年 4 月 1 日	日本社会事業大学理事長
清重 尚弘	2002 年 4 月 1 日	院長・学長
林田 博文	2012 年 4 月 1 日	中学高校長
尾田 明子	1998 年 10 月 20 日	幼稚園長
古屋 西朗	2008 年 4 月 1 日	事務局長
濱田 信夫	2006 年 9 月 28 日	大学教授
志水 龍星	2000 年 5 月 29 日	大学事務長
大野 雅人	2012 年 10 月 1 日	中学高校教諭
田仲 洋介	2012 年 10 月 1 日	中学高校教諭
和田 成子	2001 年 1 月 17 日	幼稚園教諭
福田 邦子	1995 年 7 月 10 日	のいばら会顧問・愛育会福田病院理事
齋藤 楨子	2012 年 10 月 1 日	のいばら会会長
八田 智子	2006 年 10 月 1 日	のいばら会顧問
平田 晶子	2013 年 12 月 11 日	結会会長
宮川 由香理	2013 年 12 月 11 日	結会役員
宮本 るみ	2012 年 5 月 29 日	大学保護者
井 隆博	2013 年 6 月 1 日	中学高校 PTA 会長
寺本 紀子	2013 年 6 月 1 日	幼稚園 PTA 会長
石原 靖也	2006 年 4 月 1 日	東光石油会長
米澤 房朝	2001 年 5 月 30 日	ヨネザワ社長・清水学園理事長
市川 一宏	2004 年 10 月 1 日	ルーテル学院大学教授
内村 公春	2002 年 5 月 29 日	慈愛園理事長
春木 進	2004 年 9 月 28 日	熊本日日新聞編集委員
梅元 昭宏	2004 年 9 月 28 日	梅元税理士事務所長
俵 恭子	2005 年 2 月 1 日	

2013 年 5 月 31 日まで任期

江崎 貞利	2012 年 5 月 29 日	前中学高校PTA会長
今村 美由紀	2012 年 5 月 29 日	前幼稚園PTA会長

2013 年 12 月 10 日まで任期

太田 雄三	2009 年 10 月 1 日	前結会会長
西井 辰朗	2006 年 10 月 1 日	結会広報

1.7 教職員の概要

教 職 員 組 織 <院長 清重尚弘>				
2013（平成 25）年 5 月 1 日現在				
幼稚園	<園長 尾田明子>		教職員数計（幼稚園）	18 人
	教諭		事務職員	
	専任	5 人	嘱託	1 人
	臨採	2 人	非常勤	1 人
	非常勤	9 人		
	教員計	16 人	職員計	2 人
中学校	<校長 林田 博文>		教職員数計（中学校）	26 人
	教諭		事務職員	
	専任	8 人	専任	1 人
	臨採	5 人	嘱託	3 人
	非常勤	3 人	非常勤	6 人
	教員計	16 人	職員計	10 人
高等学校	<校長 林田 博文>		教職員数計（高等学校）	101 人
	教諭		事務職員	
	専任	48 人	専任	6 人
	専任（J3）	4 人	臨採	人
	臨採	4 人	嘱託	4 人
	非常勤	24 人	非常勤	5 人
大学	<学長 清重 尚弘>		教職員数計（大学）	142 人
	教員		事務職員	
	専任	36 人	専任	15 人
	兼任	79 人	嘱託	1 人
			非常勤	11 人
	教員計	115 人	職員計	27 人
大学院	<研究科長 一門 恵子>		教職員数計（大学院）	19 人
	教員			
	兼任講師	9 人		
	兼担	9 人		
	教員計	18 人		

学院総務部	＜事務局長 古屋 四朗＞	教職員数計（総務部）	10 人
	事務職員		
	専任	7 人	
	嘱託	1 人	
	非常勤	2 人	
	職員計	10 人	

（注）平均年齢は、専任教員 43.1 歳（J3, 牧師含む）、専任職員は 45.9 歳である。

2. 事業の概要

2.1. 大学・大学院

2.1.1. 学生確保 2013 年 入試結果

例年通り、指定校推薦、一般推薦、センター、一般Ⅰ期、Ⅱ期の5回実施。

志願者数計 594 名は過去最高（2014 年度 549 名）。

内容的には更に向上、評定平均値 4.0 以上がほぼ半数、面接評価も高い。

2.1.2. 就職

就職難が報じられる中、善戦健闘、94%超。

学科によって差があるのが現状。心理臨床学科の出口開拓の努力が必要。

就職指導は個別指導を徹底し、学内に設置した会場で会社説明会を合同開催するなど、少人数の本学に適した方法での新しい試みが効果を挙げている。

2.1.3. 教育体制

教員の厚みが更に加わり、内容の強化を図る事が出来た。特に資格取得課程（教諭、保育士、精神保健福祉士等）の指導には、座学と実習の両面に経験豊かな教授陣を配する事が出来、成果が期待出来る。

2.1.4. 障害学生サポート

重度の重複障害を持つ柴田美優さんが入学。受け入れには事前に一年間をかけて高等支援学校と大学の両者が柴田さんの中に緊密な話し合いを積み重ねた。入学後は、全学的に研修を繰り返し、専門家を招くなどして、ともに学びを続けている。障害者基本法（1970 年制定）が 2011 年に改訂され、国連の条約批准に至った（2014 年 1 月）のに時を同じくして、本学の取り組みが開始されたのは意味深い。

2.1.5. 宗教教育

中核を担う黄チャプレンの献身、斎藤助手、ジャッキー・ベンケ先生の協力を得て、学生のチャペル委員の活躍が功を奏し、礼拝出席の平均が 100 を超える。数千人規模のキリスト教大学の礼拝出席が数えるほどと聞く中で、ルーテルの実績派実に感謝すべきことである。

2.1.6. 大学院

修士号取得者数は、3 名。

現職を持ちながら学べる大学院として、少数ながら、貢献している意味は大きい。

以上

2.2. 中学・高校

2.2.1. 教育環境の整備

○「女子寮耐震工事」、「本館トイレ改修」を行い、教育環境の改善と充実を図ることができた。

2.2.2. 教学内容＜中学校＞

○自立した中学生の育成 ～行事の見直しと具体的な取り組み～

◆「体験学習」を中学3学年全体で実施 9月11日（水）～13日（金）の3日間

➤1年生：ルーテル阿蘇山荘において「野外活動体験」。ハイキング・箸づくり・ピザ焼き体験などの活動的なプログラムとなり、内容が充実してきた。

また、ボランティアで社会人ティーチャー（保護者）を招いて、ピザ焼き体験と朝食の指導をお願いすることができた。

➤2年生：1人1事業所での「職場体験」を計画し実施できた。準備段階での困難さは多くあるが、保護者と教職員の協力により乗り越えることができた。「つまずきからの学び、ひとりでのチカラ」を経験させたいと考えている。体験学習後の子どもたちの成長に期待したい。

➤3年生：熊本ライトハウス（ルーテル社会福祉法人 慈愛園）で「福祉・ボランティア体験」を体験した。生徒たちは、山口園長先生の「心は、心と心のふれあいを通して育まれる」という言葉に深い感銘を受け、3日間で大きな成長のきっかけをいただいた。

◆学級づくり・集団づくり・仲間づくり

➤班活動や話し合い活動などを通して学級づくりに取り組んだ。集団の中で個人・個性を認め合う仲間づくりにも取り組み、いきいきとした生徒の育成に努めた。

◆合唱コンクールの開催

➤中学学年会と音楽科で取り組み、回を重ねるごとに充実してきている。中学3年生が自分たちの思いを込めて、クラスで団結し、すばらしい合唱ができた。

卒業式の卒業生による合唱もすばらしかった。

○一人ひとりの学力向上 ～確かな学力を身につける～

◆英語教育の充実

➤中学の英語教育を充実させ、“中学教育の強み”にしていきたい。

◆授業アシスト制度の推進と改善

➤授業効率の向上と特別支援を要する生徒に対応しながら授業管理をすることができた。より効果的で、生徒が主体的に授業へ取り組むようにしていきたい。

◆「学びタイム」の実施

➤意欲的な生徒または学力不振の生徒に対して、毎週木曜日と考査前および長期休暇中に「学びタイム」を実施した。環境整備（個別学習対応机）で自学自習により成果を上げつつある。

◆進路部との連携による進学指導

➤中学学年会と進路部がより連携を図り、高校への進学指導が充実してきた。現在、成績上位者が県立高校・私学を受験する傾向にあるが、今年度は学年トップの生徒が進学するようになった。そのような生徒が増えるようにしていきたい。

○中学校におけるキャリア教育 ～将来を見通した進路設計～

- ◆「J 1 野外活動体験、J 2 職場体験、J 3 福祉・ボランティア体験」の系統化
 - 同時期に3学年の体験学習を組み込んでいるため、準備に多忙感はあるが、中学部を中心に計画して年々充実している。
- ◆進路カウンセリング、進路ガイダンスなどの充実
 - 二者面談および三者面談を通し、一人ひとりの将来の進路設計を考えるきっかけになっている。生徒がさらなる高みを目指すための進路指導を図りたい。
- ◆「中学3年生 学力検討委員会」の実施
 - 中学教育における学力の質的向上を考える上で、情報を分析し共有、具体的な取り組みへとつなげるという基本的なことを改めて検討した。中学生の学力向上を図る有意義な会となった。中学教育の改革へとつなげるため、2回実施した。

2.2.3. 教学内容＜高 校＞

○進路保障について

- 志望校への合格という目標達成のために、受験指導と進路指導をしていきたい。これからも生徒たちの希望進路を達成できるように努力します。

○朝読書の試行と2014年度4月からの開始決定

- 高校でも朝読書を開始した。1月からの試行期間を経て、2014年度からと陸ことを決定した。現実的には、生徒間に読書に対する意識差はあるが、読書の必要性については高いものがある。無理をせずにできることからやることにした。

○3校合同進学講座に実施。今年度で3回目、本校からの参加者は33人

- ルーテル学院、九州学院（当番校）、文徳の3校合同進学講座及び特訓授業を計画した。互いに進学に対する意識の高揚につながった。

○「国際交流委員会」「熊本時習館海外チャレンジ推進事業 海外進学協力校」に応募

- 準備して申請したが、真和高等学校が採用された。ルーテル学院は次点だった。

2.2.4. 教学内容＜中学・高校共通＞

○キリスト教教育の充実教育

- ◆J 3（ネイティブの英語教師）が高校3年修養会に参加
 - 高校3年修養会にJ 3が参加し、プレゼンテーションとプログラムの企画・運営
- ◆受洗者祝福会 2月28日（金）昼休み 校長室
 - 高校生：新美愛さん（高校1年生）、角本茜さん（高校3年生 洗足大学に進学）

○「特別支援教育」と生徒への対応を高める取り組み

- ◆SSW（スクールソーシャルワーカー）の活用
 - 私学協会の委託事業で、学校で対応が困難な生徒および保護者にSSWを活用することにした。専門家のアドバイスを教育現場で生かすことができています。
- ◆サポート委員会での取り組み
 - 発達障害を含んだ特別支援教育の指導体制が組織的に取り組めるようになりました。熊本県私学サポート事業の活用により、より効果的な指導プログラムを組むことができた。また、授業アシスト制度と連携することができた。

○中学および高校各コースにおける定員100%充足

- ◆定員の充足率
 - 中学74名（93%）、高校396名（124%）の入学生を迎えることができた。次年度も教育内容を充実させ、募集活動に力を入れていきたい。
- ◆芸術コース入学者と募集活動

- 24名（音楽8名、美術16名）。指導内容と施設をより充実させ、芸術コースで1クラス編成できるよう努力する。特に、音楽の募集（受験生の確保）を充実させる。
- 「はな阿蘇美コンサート（6月末の土曜日）」、「玉名高瀬蔵コンサート（8月の土曜日）」を総務部の協力を得て開催し、募集活動に努めている。
- ◆美術展（芸術コース美術）の開催 12月3日～8日 崇城大学ギャラリー
 - 2回目の取り組み、美術展という形で実施し募集状況を充実につながつている。
- 中学募集対策 サマースクール・スクールキャラバンの充実
 - ◆小学生の応募状況と活動の様子
 - ・多くの小学生が応募していますが、これからも内容の充実を図りたいと思います。期間中、参加した小学生は積極的に活動し充実した毎日を送ることができました。十分に中学募集につながっています。
- グローバル教育・国際交流プログラム
 - ◆アメリカ研修旅行（オークグローブルーテル高校 ノースタゴタ州ファーフ）を8月に実施した。国際交流を積極的に進めている。
 - ◆韓国全州新興高校研修旅行 2014年3月20日（木）～24日（月）
 - 高校1・2年生11名が参加。のいばら会の支援事業として、春休みの時期（新興高校は新学期）に定着し、グローバル人材の育成を図りたい。引率教師（山口先生）も韓国の教育に興味・関心が強く、教職員の研修・交流の機会にもしていきたい。
 - ◆芸術コースヨーロッパ研修旅行 2014年3月18日（火）～25日（火）
 - 2年に一度実施。高校1・2年生43名が参加。芸術に対する意欲を高めるために、春休みに計画した。希望者も多く、3名の引率教師で対応した。ヨーロッパの歴史ある芸術に触れ、「芸術を磨くとともに芸術で磨かれる」を実感できた。
- ボランティア活動
 - ◆夏休みを中心に、ボランティア活動を推進している。教会からの要請で、神水教会と室園教会でボランティア活動を行った。教会とのつながりを深めることができた。
- 講演会の開催
 - ◆竹熊麻子さん 演題「不確かな未来に迷わず人生を切り開くために」
 - 5月21日（火）13時30分 ルーテル学院中高体育館 中高生全員
- 他校訪問（私学と熊本県立高校）による教員研修会の実施
 - ・衛藤繁先生の提案で、希望の先生で視察研修を行った。九州学院、県立玉名中学・高校、県立第一高校、県立第二高校などを視察し、よい学びの場が与えられた。本学院の教育力の向上につなげたい。
- 「自己育成シート【教諭・講師用】」による面談を実施
 - 前期と後期の2回、教諭及び講師の面談を教頭・中学主事・高校主事で実施し、教育の質的向上の手掛かりにし、継続して“ルーテルの教育”を高めていきたい。

2.2.5. 企画事業

- 「中学2年沖縄研修旅行」 ※沖縄興南中学校との交流
 - 平和学習を沖縄興南中学校で行い、興南中学門林先生・石川先生による平和学習に加え、新聞部生徒10人が平和について意見発表し、同世代の交流が実現した。
 - 見学地の首里城では、興南中学・高校社会科部の生徒20名による“首里城ガイド”で散策し、知識習得と交流を深める良い機会となった。
- 「中学平和学習」2014年3月11日（火）5・6・7限目 大学4301講義室
 - 目的：聖書、建学の精神「感恩奉仕」からの学び、戦争という事実から平和の意味を深く理解し、平和を次世代へと継承する担い手になるために行う。
 - 内容：
 - 1)「あゝひめゆりの塔」のDVD視聴（モノクロ 125分）
 - 2) 中学2年生による沖縄研修旅行での現地学習発表会（30分）
 - 3) レポート作成

中学2年生：「平和の実現に向けて、今の私にできること」

中学1年生：「沖縄研修旅行で学びたいこと」

※すばらしい会となった。生徒の準備と教師側の指導が一体となり、発表の姿勢と発表内容も非常にすばしかった。朝読書で表現力がみついていた証かもしれない。大学の施設をお借りして、中学生が大学を知る機会ともなった。

また、中学1年生にとっては12月の「沖縄研修旅行」に向けて、2年生からの体験談を直接聞くことができ、生徒による生徒のための事前学習となった。

生徒の潜在能力の高さと教師の指導力の重要性を再認識する良い機会であった。

○「成人をともに祝う会」 2014年1月13日（月）13時 礼拝堂・学院食堂

➤参加者は約100名（卒業生：約50名 関係者・教職員：約30名 在校生：約20名）、のいばら会のご支援とご協力で実現した2回目の取り組み。

20歳を迎える卒業生代表が準備をした。昨年度よりもよい準備ができた。

今回は、在校生（生徒会・写真部）の協力も得て充実した内容となった。在校生からは、「自分もぜひ、20歳になったら参加したい」という声が聞けた。

母校と同窓会がつながり、在校生と保護者の協力で伝統的な会に発展しつつある

○祝賀会の開催と協力

◆遠山和美先生「瑞宝双光章」受賞式への協力

➤ルーテル学院中学・高等学校サッカー部の基礎を築かれた。中学校では全国優勝・3位、高校では3度の全国サッカー選手権出場・高校総体出場に尽力された。
熊本県サッカー協会の重鎮、現在も指導者として選手としてもご活躍中。

◆工藤勇壹先生「荒木精之記念文化功労者」受賞祝賀会の開催

➤工藤勇壹先生は、長年に渡り本校で奉職され、音楽分野において全国大会にも出場され、合唱団・オペラの指導が評価されての受賞。

4月22日に逝去された。受賞を機に、ますます健康で活躍を期待していた矢先で残念であるが、先生の生前の芸術教育に対する強い思いをしっかりと受け止めて具体的な行動を起こしたい。ご冥福をお祈りする。

◆中原宏子元PTA会長「文部科学大臣賞 PTA活動振興功労者」受賞祝賀会の開催

➤中原宏子元PTA会長は、本校のPTA活動において会計の適性化や東日本震災被災地への生徒ボランティア派遣などに尽力されての受賞

2.3. 幼稚園

2.3.1. 園児の動向と将来計画

2013年度の園児数は、定員150名に対して144名(5/1)でスタートし、満3歳児が誕生月毎に幼稚園入園となるので、年度末では165名の在籍数を確保することができた。

2歳児は、2013年度より認可外保育所『ルーテル学院幼児園』(18名定員・保育士2名・看護師1名)として開設し、10月には熊本市保育幼稚園課からの立入り調査を完了し、更に次年度以降計画の「幼保連携型認定こども園」を目指してすすんでいるところである。

2.3.2. キリスト教保育の充実と教師の資質向上

- ・今年度も教育方針の要である『キリスト教保育指針』『保育指針』『教育要領』を中心にカリキュラムを作り、キリスト教保育を進める。
- ・新任教師も含めキリスト教を土台とする保育に対する学びを研修などで深め、教育計画の検討、保育士、教師全体の専門性・資質の向上を高める研鑽を充実したい。
- ・九州ルーテル学院大学との連携を視野に入れ、白樫教授のより指導により園内研修の充実をはかる。

2.3.3. 特別支援教育の充実

- ・10名の特別支援を必要とする子どもたちが在籍していたが、公立小学校と熊大附属特別支援学校へ入学することができた。
- ・新年度は更に重複障がいの子どもを複数受け入れているので、13名の支援の必要な子どもに継続して看護師2名を含め、補助教諭6名で対応予定。
- ・「特別支援コーディネーター」の研修を通して熊本市発達支援センターとの連携で学びも深まり、3名の教師がコーディネーター教諭として登録。
- ・特別支援の必要な子どもたちは補助の教諭を充実させながら、療育施設や専門機関との連携を密にとりながら受け入れていく予定である。

2.3.4. 学校評価の充実

- ・保護者も含め・第三者評価への(自己・教育(保育)・幼稚園)取り組みはまだ継続し、改善しながら取り組みたい。

2.3.5. 認定こども園の動向

- ・平成27年度をめどに『幼保連携型認定こども園』についての意向を行政の関わりを慎重に検討しながら具体的な「将来計画と準備」を進めていきたい。

2.4. 法人及び事務部門

2.4.1. 事務部門全体

事務部門は『魅力ある学校を作る』をスローガンとし、サービス向上、業務改善、成長の3つの視点で、全体、部署および個人の目標を設定して進めた。

2.4.1.1. サービス向上

事務部門は各自が何らかのサービスを担当しているので、それぞれに具体的な目標を掲げてその内容を高めることを目指して実践した。

2.4.1.2. 業務改善

サービス向上の基盤となる、管理性・業務効率・業務品質の向上に力を入れた。

2.4.1.3. 成長

職員の人材育成には特に力を入れ、建学の精神に基づく高い志と、実質的な知識・能力を持った、自律的職員集団の形成をめざして、体系的に取り組んでいる。

大学コンソーシアム熊本にSD委員会の設置を呼びかけ、これまでの私大合同研修を継承した上で主任・管理職研修を新設した。

全職員と全研修機会のマトリクスをもとに、計画的な研修受講を進めている。

全職員研修会では、「障がい者を同僚に迎える」をテーマに開催し、理解を深めた。

2.4.2. 法人運営

2.4.2.1. 広報

学校法人(<http://kluther-gakuin.jp/>)及び90周年事業(<http://kluther-gakuin.jp/90th/>)のホームページを制作し、2014年4月に公開した。

2.4.2.2. 人事労務

2010年から進めてきた就業規則の全面見直しを完了した。就業規則関連は絶えず見直しが必要だが、それらの課題に自信を持って取り組める基盤ができた。

教職員の心の健康について、「心の健康作り計画」を積極的に推進した。毎年実施している疲労蓄積度チェックリスト集計結果を見ると大きく改善している。

「子育て応援ガイドブック」を作成した。これは、出産・子育てにかかるあらゆる制度をコンパクトにまとめた冊子である。

2.4.2.3. 施設・環境整備

中高本館両翼と女子寮の耐震改修工事を行い、構造物の耐震改修はすべて完了した。更に、大学では学院会館・3号館の空調機交換と玄関前の整備、中高では高校のトイレの大改修など、積極的な施設整備を行った。また大学では教室の机・椅子の入替えがほぼ完了した。

2.4.2.4. 阿蘇山荘

阿蘇山荘の有料利用者が、延べ 24 団体、1276 人となった。

年に一度の教会との合同清掃、職員有志の宿泊手入れ、階段等の改修工事、ホームページによる宣伝、九州教区による利用者補助、中高による積極的な利用などの成果である。

2.5. 宗教教育

2.5.1. 学院の宗教活動

キリスト教の建学精神に基づき、宗教活動・教育を行う中、本学院は学校と教会が相互に協力できる働きを大変重視している。数年の模索を通して、今はその成果が見え始めており、両方の連携は深まっている。

特に、県内各教派の牧師・司祭を招いたキャンパスミッション懇談会で、教会から沢山の有意義な提案をいただいた。ていねいに検討した上で、段階的に実施している。例えば同窓会を教会で行ったり、阿蘇山荘でユースキャンプを行なったりした。反応は大変良かったため、次年度にその活動を一層深めていこうとしている。

その他、クリスマス関連行事、キリスト教学校同盟及びルーテル諸学校との交流も定着している。また、クリスマスイルミネーション点灯式も、本学院の定番行事の一つである。

2.5.2. 大学における宗教活動

大学では、教職員の宗教委員会と学生のチャペル委員会によって宗教活動を進めている。2013年度の宗教委員会のメンバーは10名、チャペル委員会のメンバーは87名であった。

主な宗教活動は毎日の礼拝である。大学での礼拝は自由参加としている。本学の学生のほぼ全員は入学によって初めてキリスト教と出会ったにもかかわらず、チャペル委員の活躍によって、礼拝出席率は依然として16%以上のレベルを維持している。

2013年度は141回の礼拝が持たれ、毎回の平均出席人数は123名（前年度は120名）であった。皆勤者が18名、1～2回欠席の精勤者が6名である。その中、4年間皆勤者が1名いる。「礼拝は自分のためになる」というのが多くの学生の感想であった。

礼拝では色々な表彰式や、祝福式などをも行っている。

他の主な行事としては、阿蘇山荘清掃、サマーキャンプ及びクリスマス礼拝などがある。

2.5.3. 中学・高校における宗教活動

礼拝を始めとするキリスト教学校生活の中で、朝の礼拝の時間を実状に合わせて充実すると共に、その後の時間の流れもさらに効率良いものにするために、2013年度は朝の礼拝の時間とその前後の時間において少し変化があった。またキリスト教活動の担当教員の組織においても変化があった。いずれの変化も現状に無理なく受け入れられ、以前より落ち着いた形でキリスト教活動が計画され、実施されたと見受けている。

2.5.4. 幼稚園における宗教活動

園児は、日々の保育の中で教師が担当し、また週に1回黄チャプレンによる合同礼拝と保護者対象の聖書学びの会・教師の毎朝の礼拝を担当していただいている。

キリスト教行事を通して、園児のみならず保護者にも理解をしていただけるよう、行事の折に参加を募ったり、説明に努めている。視聴覚などの教材を利用しながら、キリスト教の教えを分かりやすく教え、『祈る子ども』『他者に目を向けることができる子ども』をめざしている。

2.6. 入試結果・入園入学状況（2014年4月入学者）

学校名	種別	志願者数	合格者数		入学(園)者数	
幼稚園	満3歳児				(5/1時点)	3
	3歳児					37
	4歳児					4
	5歳児					3
	計					47
中学 募集定員 80	専願	42	奨学生 A	2	奨学生 A	2
			奨学生 B	6	奨学生 B	6
			奨学生 C	2	奨学生 C	2
			専願生	29	専願生	29
	奨学前期・後期	44	奨学生 A	4	奨学生 A	2
			奨学生 B	10	奨学生 B	7
			奨学生 C	21	奨学生 C	13
			奨学生 D	5	奨学生 D	3
	一般	13	奨学生 A		奨学生 A	
			奨学生 B	1	奨学生 B	1
			一般生	10	一般生	9
	計	99	90		74	
高校 募集定員 320	専願	186	奨学生 A	10	奨学生 A	10
			奨学生 B	12	奨学生 B	12
			奨学生 C	5	奨学生 C	5
			専願生	123	専願生	123
	奨学	548	奨学生 S	2	奨学生 S	0
			奨学生 A	39	奨学生 A	7
			奨学生 B	95	奨学生 B	14
			奨学生 C	305	奨学生 C	85
			奨学生 D	57	奨学生 D	28
	一般	219	奨学生 A	3	奨学生 A	0
			奨学生 B	3	奨学生 B	0
			奨学生 C	0	奨学生 C	0
			一般生	168	一般生	77
			S	1	S	1
	ルーテル中学	35	奨学生 A	0	奨学生 A	0
			奨学生 B	4	奨学生 B	4
			奨学生 C	0	奨学生 C	0
			認定生	30	専願生	30
	計	988	857		396	

大学 (人文学科) キャリアイングリ ッシュ専攻 募集定員 35 名	指定校推薦	19	19	19
	公募推薦	5	5	5
	授業料全額免除推薦	0	0	0
	帰国学生及び私費外国人留学生	2	0	0
	一般Ⅰ期	54	18	12
	一般Ⅱ期	10	2	2
	センター利用	17	12	0
	編入学	3	2	2
	長期履修学生(編入学)	0	0	0
	計	110	58	40
大学 (人文学科) こども専攻 保育コース 募集定員 30 名	指定校推薦	12	12	12
	公募推薦	16	6	6
	授業料全額免除推薦	1	0	0
	帰国学生及び私費外国人留学生	0	0	0
	一般Ⅰ期	49	14	9
	一般Ⅱ期	10	3	2
	センター利用	6	3	1
	計	94	38	30
大学 (人文学科) こども専攻 児童教育コース 募集定員 10 名	指定校推薦	1	1	1
	公募推薦	13	4	4
	授業料全額免除推薦	1	0	0
	帰国学生及び私費外国人留学生	1	0	0
	一般Ⅰ期	58	9	6
	一般Ⅱ期	18	2	2
	センター利用	18	3	0
	計	110	19	13
大学 (心理臨床 学科) 募集定員 75 名	指定校推薦	27	27	27
	公募推薦	33	17	17
	授業料全額免除推薦	3	0	0
	帰国学生及び私費外国人留学生	0	0	0
	一般Ⅰ期	105	36	20
	一般Ⅱ期	29	10	6
	センター利用	41	15	4
	編入学	4	2	2
	長期履修学生(一般入学)	0	0	0
	長期履修学生(編入学)	1	1	1
	計	243	108	160
定員 150	大学合計	557	223	160
大学院 人文学 研究科 (障害心理学専 攻)	一般選抜	1	1	1
	社会人選抜	4	4	4
	計	5	5	5

第2、第3希望の合格者を含む

2.7. 卒業生数及び進学・就職状況（2014年3月卒業者）

【2014年5月1日現在】

2.7.1. 2013年度卒業・卒園数 (人)

ルーテル学院幼稚園	56
ルーテル学院中学校	63
ルーテル学院高等学校	312
九州ルーテル学院大学	163
九州ルーテル学院大学・大学院	4

2.7.2. 2013年度卒業生の進学・就職の状況

2.7.2.1. 中学校 (人)

ルーテル学院高等学校	39
その他	24
合 計	63

2.7.2.2. 高等学校

進学 (合格者延人数) (人)

大学	国公立	11
	私立	175
	九州ルーテル学院大学	13
準大		0
短期大学	国公立	4
	私立	24
高等看護学校		10
その他の専門学校		92
合 計		329

就職 (人)

産業別就職者	公務員	3
	サービス業	4
合 計		7

都道府県別就職者	熊本県	5
	県外	2

2.7.2.3. 大学

第 14 期生 一般企業（希望者 92 人、決定者 83 人）

卸・小売業	21
医療福祉	17
金融・保険業	9
サービス業	8
不動産業	5
運輸業	5
宿泊・飲食サービス業	4
教育・学習支援業	3
製造業	3
建設業	3
生活関連サービス・娯楽業	2
情報通信業	1
その他	2
合 計	83

第 14 期生 保育士・幼稚園教諭・施設保育士（希望者 35 人、決定者 35 人）

保育士	21
幼稚園教諭	10
施設保育士	4
合 計	35

【その他】

熊本市保育士	1
和水町保育士	1
小国町保育士	1
熊本県教員	1
熊本市教員	1
教員（臨時採用）	8
大学院、専門学校	8
合 計	21

2.8. 施設等の状況

2.8.1. 主な施設設備の状況

(単位：㎡)

所在地	施設等	校地面積	校舎面積	利用対象
熊本市中央区黒髪 3丁目269番地 他 (黒髪キャンパス)	校地	46,445.85		大学、中高、幼稚園
	校舎15棟(学院会館、 学生自治会棟含む)		21,212.5	同上
	体育館1棟		1,925.88	中高
	部室棟2棟		395.28	同上
	寮2棟		4,157.11	同上
	その他		82.88	守衛室、トイレ棟
熊本市北区鶴羽田 竹ノ下他(菊南グ ラウンド)	校地	48,823		大学、中高(野球部)
	部室、監督室他		293.15	同上
合志市野々島中野 (野々島グラウン ド)	校地	19,099		中高(サッカー部)
	クラブハウス		228.8	同上
	部室棟他		85.31	同上
阿蘇郡南阿蘇村河 陽(阿蘇山荘)	校地	37,059		総務部で管理
	研修所		719.66	同上
合 計		151,426.85	29,100.57	

2.8.2. 2013年度に実施した工事

以前から計画予定だった工事と、2014年4月からの消費税改定のため、前倒しで実施した工事があり、2013年度は工事の多い年度となった。

1) 女子寮(学院寮)耐震改修工事及び高校本館東・西ウイング耐震改修工事

工事期間は、6月1日から9月20日にかけて実施された。改修費用で施工費は113,400,000円。施工は岩永組。設計監理は九州 REED コーポレーション。設計料は3,360,000円。女子寮では耐震壁の設置、窓サッシの改修、浴室及びトイレの全面改修、廊下の床タイル入替を行い、明るく清潔感ある快適な生活空間が実現した。施工には寮生の意見を取り入れ、寮生にとっても満足度の高いものとした。

東・西ウイングでは耐震壁設置を行い、地震に対して安全な教育的環境が完成した。

今回の耐震改修については、県から初めて補助金が出され、国からの補助金と併せて45,000,000円の補助を受けた。

2) 大学3号館及び学院会館エアコン更新工事

工事期間は1月から3月末にかけて実施された。工事費用は31,500,000円。施工はダイキンエアテクノ。故障が多く、点検等ランニングコストの費用もかさんでいたガスヒートポンプ式を一般的な電気式のエアコンに更新。快適で省エネ効果の高い教育環境となっ

た。

3) グラウンド沿い桜養生工事

以前から計画していた桜の養生工事。桜の根を保護するため、根本の土を柔らかくし、枕木で囲い、花壇風の落ち着いた雰囲気となった。工事期間は、10月下旬から11月末まで。施工は翠松園。

4) 大学1号館玄関周辺工事

工事期間は、1月から3月末にかけて実施された。工事費用は2,670,000円。電柱の撤去、電話線等の整備、垣根等の植栽工事、舗装工事等を行い大学玄関に相応しい雰囲気のあるものになった。

5) 中高トイレ改修工事

特に生徒から改善の要望が出ていた本館、体育館、東棟のトイレの改修工事を実施した。工事期間は1月から3月末にかけて実施。費用は44,100,000円。明るく、清潔で生徒のコミュニケーションの場としての快適なトイレができた。

2.9. 年間行事

(2013年4月～2014年3月)

	大学	中学・高等学校
4月	・入学式、1年次生保護者会 ・新学期オリエンテーション ・フレッシュマンキャンプ(新入生歓迎オリエンテーション)	・男女入寮式 ・入学式 ・始業式
5月	・新入生歓迎スポーツデー	・体育大会 ・PTA総会、懇談会、懇親会 ・中学1年生修養会
6月	・日本キリスト教教育学会 ・大学院説明会	・高校3年生修養会 ・前期中間考査
7月	・前期補講 兼 定期試験 ・第1回オープンキャンパス ・大学院説明会	・大掃除、全校集会 ・高校第1回オープンキャンパス ・中学第1回入試説明会 ・中学サマースクール
8月	・教員免許状更新講習 ・第2回オープンキャンパス ・長期履修学生入学試験 ・こども専攻リカレント ・オープンカレッジ(5回シリーズ)～10月まで ・公開講座(英語6回シリーズ)	・私学教育一斉研修 ・大掃除、全校集会 ・スクールキャラバン
9月	・サマーキャンプ ・秋季卒業式・入学式 ・大学院入学試験 ・第3回オープンキャンパス	・ミッションクリーン ・高校第2回オープンキャンパス ・前期期末考査
10月	・2年次生保護者会 ・ペプラー	・後期始業の辞 ・学院祭 ・中学第2回入試説明会
11月	・指定校推薦入学試験 ・授業料全額免除、公募推薦入学試験 ・ホームカミングデー ・フィリア祭 ・クリスマス点灯式 ・こどもフェスティバル ・第4回オープンキャンパス	・高校第3回オープンキャンパス ・強歩会 ・後期中間考査 ・音楽会
12月	・プレ・カレッジ(入学前教育) ・クリスマス礼拝 ・クリスマス祝会	・中学2年生研修旅行 ・高校1年研修旅行 ・大掃除、全校集会 ・クリスマス礼拝、キャロリング、早天礼拝 ・中学入試(専願・奨学前期)
1月	・大学入試センター試験 ・後期補講 兼 定期試験	・大掃除、全校集会 ・中学入試(一般前期・奨学後期) ・高校入試(専願・奨学、実技「体育・芸術」) ・熊本バンド早天祈祷会
2月	・一般Ⅰ期、編入学試験、外国人入学試験 ・大学入試センター利用入学試験 ・業界別企業説明会 ・修士論文発表会	・中学入試(一般後期) ・中学入学者登校日 ・高校入試(一般) ・後期期末考査
3月	・一般Ⅱ期、長期履修学生入学試験 ・卒業式、Farewell Party ・兼任講師懇談会 ・合格者招集日	・高校卒業式 ・大掃除、全校集会 ・中学卒業式 ・高校入学者登校日

	幼稚園	学院全体
4月	・新学期始園式 ・一日入園 ・入園式 ・入園感謝親子礼拝 ・イースター礼拝 ・お見知り遠足	・辞令交付式 ・新任教職員オリエンテーション ・学院歓迎会
5月	・母の日礼拝 ・健康診断(内科、歯科)	・阿蘇山荘学院・教会合同清掃 ・決算会計監査 ・理事会・評議員会
6月	保育参観 花の日礼拝	
7月	・お泊り保育 ・1学期終園式	
8月	・長期休暇預かり保育 ・夏期保育	
9月	・2学期始園式 ・祖父母お祝い会	・理事会・評議員会
10月	・運動会 ・収穫感謝礼拝 ・バザー(保護者会主催)	・創立記念日 学院研修会
11月	・平成26年度入園児願書受付 ・芋ほり遠足	・ホームカミングデー ・クリスマスイルミネーション点灯式
12月	・2学期終園式 ・未就園児クリスマス会 ・クリスマス礼拝 ・年長組家族礼拝	・理事会・評議員会 ・半期決算会計監査 ・教職員クリスマス礼拝
1月	・3学期始園式 ・もちつき ・年中組家族礼拝	・新年礼拝
2月	・保育参観(だご汁) ・観劇会 ・もも・年少組家族礼拝	
3月	・卒園感謝礼拝(室園教会) ・卒園式 ・終園式	・理事会・評議員会

2.10. その他

2.10.1. 当該年度の重要な契約

特になし。

2.10.2. 係争事件の有無と経過

特になし。

2.10.3. 決算日以降に生じた重要な事実

特になし。

3. 財務の概要

3.1 決算の概要

本学院の会計は「学校法人会計基準」に基づいている。決算の見方は、事業報告書巻末の解説を参照されたい。

3.1.1 貸借対照表の概要

(単位・千円)

科 目		2013 年度末	2012 年度末	増 減
資産の部	固定資産	4,645,802	4,400,090	177,123
	有形固定資産	4,411,321	4,191,025	154,268
	土地	1,464,333	1,448,693	15,641
	建物	2,219,368	2,109,865	100,862
	その他有形固定資産	727,619	632,467	37,765
	その他の固定資産	234,481	209,065	22,855
	流動資産	633,957	525,744	△ 4,997
	現金預金	516,737	373,907	△ 14,740
	その他流動資産	117,220	151,837	9,742
資産の部合計		5,107,633	5,279,758	172,126
負債の部	固定負債	741,057	775,773	△ 66,884
	長期借入金	510,390	561,590	△ 54,350
	その他固定負債	230,667	214,183	△ 12,534
	流動負債	278,543	182,972	66,654
	短期借入金	54,350	54,850	0
	その他流動負債	224,193	128,122	66,654
負債の部合計		1,019,830	1,019,600	△ 230
基本金の部	第 1 号基本金	5,805,056	5,584,464	162,055
	第 4 号基本金	129,000	129,000	0
基本金の部合計		5,772,001	5,934,056	162,055
繰越消費収支差額の部		△ 1,684,198	△ 1,673,898	10,300
負債の部、基本金の部、及び繰越消費収支差額の部 合計		5,107,633	5,279,758	172,126

前年度末に比べて、資産が 1 7 2 百万円の増加、負債がほぼ同じ、基本金が 1 6 2 百万円の増加、繰越消費収支差額が 1 0 百万円の増加となった。消費増税前ということもあって、女子寮、高校本館両翼、高校トイレなど多くの工事をしたことが、建物および基本金の大幅増額に

反映されている。また、その他流動負債の増加は、年度末に終わった工事の代金が未払金に計上されているためである。

3.1.2 資金収支計算書の概要

(単位:千円)

収入の部	2012 年度決算	2013 年度予算	2013 年度決算	前年比
納付金収入	1,220,132	1,234,309	1,236,977	16,844
手数料収入	33,945	33,756	33,057	△ 888
寄付金収入	17,306	18,723	20,752	3,446
補助金収入	481,534	504,192	544,894	63,359
資産運用収入	4,105	3,869	4,634	530
資産売却収入	320	0	0	△ 320
事業収入	66,719	60,143	62,353	△ 4,366
雑収入	39,068	33,260	32,108	△ 6,960
借入金等収入	60,000	0	0	△ 60,000
前受金収入	99,057	89,490	102,503	3,447
その他の収入	571,915	531,163	537,629	△ 34,286
資金収入調整勘定	△ 186,448	△ 124,787	△ 202,177	△ 15,729
前年度繰越支払資金	373,907	531,477	531,477	157,570
収入の部 合 計	2,781,560	2,915,596	2,904,207	122,647
支出の部				
人件費支出	1,160,123	1,178,551	1,177,949	17,826
教育研究経費支出	292,410	302,795	290,542	△ 1,869
管理経費支出	160,129	162,848	155,109	△ 5,020
借入金等利息支出	11,548	10,389	10,976	△ 572
借入金返済支出	57,350	54,350	54,350	△ 3,000
施設関係支出	95,135	205,862	206,336	111,201
設備関係支出	89,949	84,015	73,763	△ 16,186
資産運用支出	4,993	3,000	23,000	18,007
その他の支出	464,402	496,514	500,463	36,061
資金支出調整勘定	△ 85,956	△ 23,549	△ 105,018	△ 19,063
次年度繰越支払資金	531,477	430,821	516,737	△ 14,740
支出の部 合 計	2,781,560	2,915,596	2,904,207	122,647

前年度より 111 百万円も多額の施設関係支出となったが新規借入は行わなかった。施設整備の内容は、「2.8 施設等の状況」を参照されたい。ほかの科目の変動については、「3.1.3 消費収支計算書の概要」で説明する。

3.1.3 消費収支計算書の概要

(単位:千円)

帰属収入の部	2012 年度決算	2013 年度予算	2013 年度決算	前年比
学生生徒等納付金	1,224,557	1,234,309	1,236,977	16,844
手数料	35,034	33,756	33,057	△ 888
寄付金	23,803	18,723	20,752	△ 1,188
補助金	442,106	504,192	544,894	63,359
資産運用収入	3,574	3,869	4,634	530
事業収入	62,446	60,143	62,353	△ 4,366
雑収入	74,854	57,060	55,857	38,386
帰属収入合計	1,866,374	1,912,052	1,958,524	112,578
基本金組入額	△161,099	△345,533	△ 162,055	△ 103,517
消費収入の部合計	1,705,275	1,566,520	1,796,469	9,061
消費支出の部				
人件費	1,198,684	1,192,251	1,203,289	65,713
教育研究経費	378,565	414,916	403,040	△ 2,515
管理経費	163,020	173,890	166,144	△ 4,060
借入金等利息	11,953	10,389	10,976	△ 572
資産処分差額	0	0	2,444	2,037
その他の支出	1,267	10,819	276	333
消費支出の部合計	1,753,489	1,802,265	1,786,169	60,937
消費収支差額	62,177	△ 235,745	10,300	△ 51,876
帰属収支差額	120,714	109,787	172,356	51,641
大 学	42,370	38,236	45,364	2,994
高 校	56,465	79,634	119,646	63,181
中学校	27,651	15,126	26,313	△ 1,337
幼稚園	8,979	3,646	4,179	△ 4,801

2013年度の消費収支は、前年度に対して、帰属収入が113百万円増の1,958百万円、消費支出が61百万円増の1,786百万円、帰属収支差額は52百万円増の172百万円となった。減価償却額は123百万円であった。

変動の大きな要因は以下のものが挙げられる。

【主要な収支改善要因】

- 学生生徒等納付金の増加： 大学・高校の募集の好結果等により、17百万増加した。
- 寄付金の増加： 90周年記念事業募金の開始、及び新入生募金の好調により3百万円増加した。
- 耐震改修補助金： 中高では、女子寮と本館両翼部の耐震改修で、国庫と県から計45百

万円の補助があった。

- 雑収入の増加： 大学では、新たに導入した履修カルテ登録料、及び障がい学生支援に伴う収入が4百間円あった。

【主要な収支悪化要因】

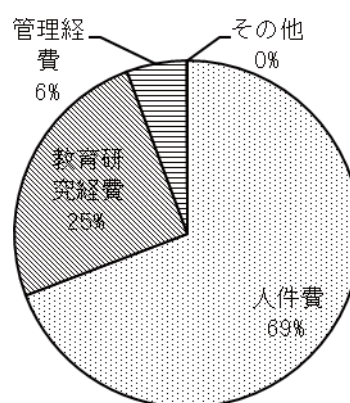
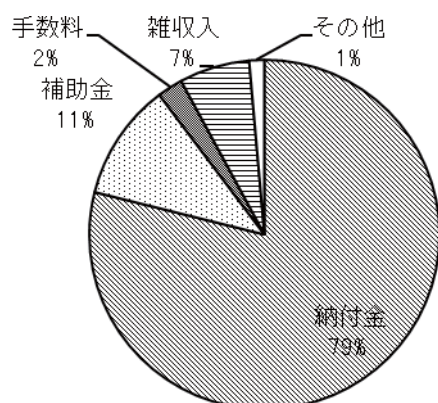
- 人件費の増加： 各学校の教員体制強化や定期昇給で28百万円増加した。
- 光熱費の増加： 大学のエアコン暖房費増加や電気代値上げで4百間円増加した。
- 90周年事業： 90周年記念事業の活動立ち上げに6百万円を要した。

機関別の収支の内訳は、次ページのグラフのとおりである。

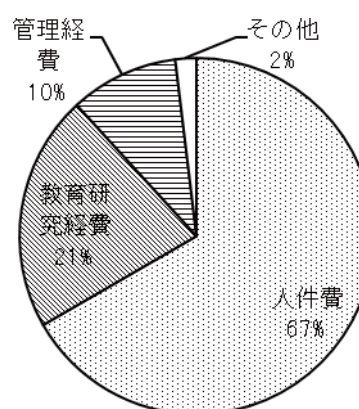
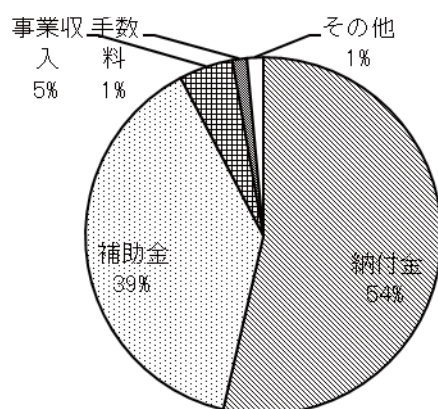
なおグラフにおいて、中学・高校と幼稚園の収入の内訳について注意が必要である。高校には就学支援金、幼稚園には就園奨励費という制度がある。いずれも保護者の納付金負担を軽減するのが目的であるが、高校の就学支援金は生徒への給付とされているので、このグラフでは納付金に含まれている。一方、幼稚園の就園奨励費は、保護者の納付金負担を軽減した幼稚園に対する給付とされているので、補助金に含まれている。

なお、幼稚園の保育料は、学校法人会計上は事業収入となるが、このグラフに限り納付金として計上した。

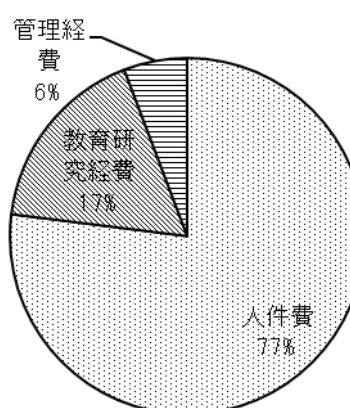
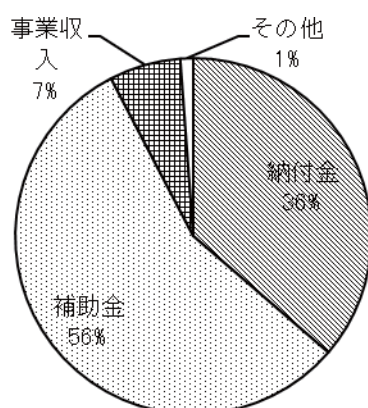
【大学の消費収支の構成】



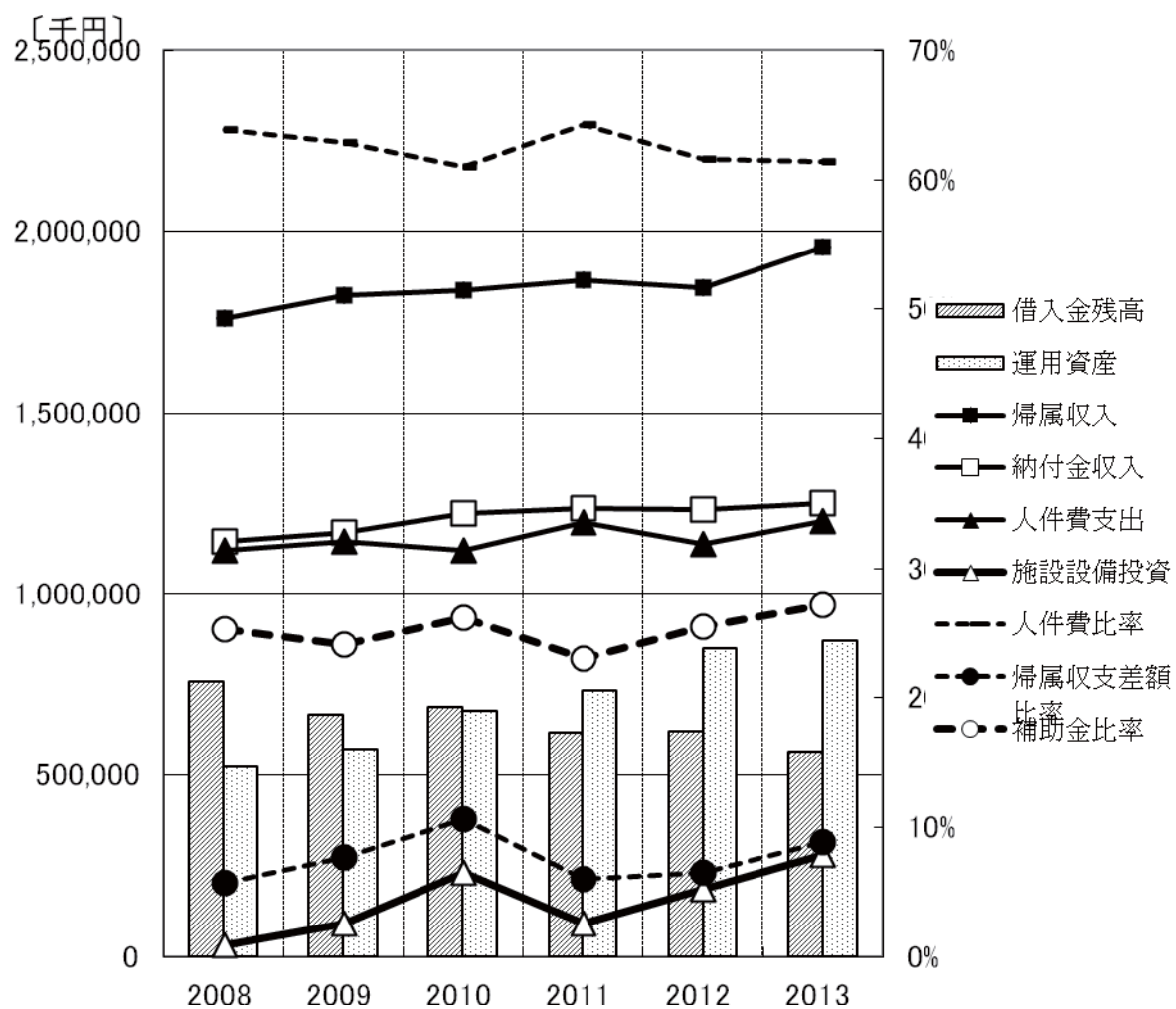
【中学・高校の消費収支の構成】



【幼稚園・幼児園の消費収支の構成】



3.2 経年比較



帰属収支差額は、2008年度から6年連続1億円を超えた。ほぼ毎年耐震改修を行ったため、補助金もこれを押し上げた。収支の改善により、毎年大きな工事をしつつ、借入金の返済と運用資産の強化を進めることができた。

3.3 主な財務比率比較

3.3.1 貸借対照表関係比率

※「良い」欄：△高いほど良い。▼低いほど良い。

観 点	比 率 名	算 式	2009 年 度	2010 年 度	2011 年 度	2012 年 度	2013 年 度	同系統 良 い	本学院の傾向
自己資金は 充実している か	自己資金構 成比率	$\frac{\text{自己資金}}{\text{総資産}}$	78.3%	78.7%	80.5%	80.0%	80.7%	82.1%	年々充実してほぼ同系統な み。
	消費収支差 額構成比率	$\frac{\text{消費収支差額}}{\text{総資産}}$	△37.2%	△34.7%	△35.5%	△33.0%	△31.7%	△7.4%	改善しつつあるが、まだマイ ナスが大きい。
固定資産は 長期資金で まかなわれて いるか	固定比率	$\frac{\text{固定資産}}{\text{自己資金}}$	115.3%	114.7%	110.9%	109.3%	109.1%	▼96.2%	7年連続改善しているが、分 母の自己資金がまだ小さい。
	固定長期適 合率	$\frac{\text{固定資産}}{\text{自己資金} + \text{固定負債}}$	94.4%	94.3%	92.8%	91.3%	92.9%	▼86.2%	7年連続改善しているが、分 母の自己資金がまだ小さい。
資産構成は どうか	有形固定資 産構成比率	$\frac{\text{有形固定資産}}{\text{総資産}}$	87.8%	86.1%	85.1%	83.3%	83.6%	▼63.0%	多くの工事をしたので、換金 性のない有形固定資産の割合 が更に上がった。
負債に備え る資産が蓄 積されている か	流動比率	$\frac{\text{流動資産}}{\text{流動負債}}$	221.0%	230.8%	287.3%	301.6%	227.6%	△248.6%	悪化した、短期負債に対す る返済余力は問題ない。
	前受金保有 率	$\frac{\text{現金預金}}{\text{前受金}}$	366.9%	428.5%	397.5%	536.5%	504.1%	△294.0%	年度による変化が大いだが、 年度末手元資金は十分であ る。
	退職給与引 当預金率	$\frac{\text{退職金引当資産}}{\text{退職給与引当金}}$	21.0%	26.7%	29.2%	30.8%	32.0%	△65.1%	今後毎年3百万円ずつ積増し て改善中である。

(つづき)

観点	比率名	算式	2009 年度	2010 年度	2011 年度	2012 年度	2013 年度	同系統	良い	本学院の傾向
負債の割合 はどうか	固定負債構成比率	$\frac{\text{固定負債}}{\text{総資産}}$	17.3%	17.1%	15.7%	15.8%	14.0%	9.4%	▼	確実に返済しつつあるも、長期にわたって償還すべき負債がまだ多い。
	流動負債構成比率	$\frac{\text{流動負債}}{\text{総資産}}$	4.4%	4.2%	3.7%	4.1%	5.3%	8.5%	▼	流動負債は低く、問題ない。
	総負債比率	$\frac{\text{総負債}}{\text{総資産}}$	21.7%	21.3%	19.5%	20.0%	19.3%	17.9%	▼	同系統なみになるまであと一息である。
	負債比率	$\frac{\text{総負債}}{\text{自己資金}}$	27.7%	27.0%	24.2%	24.9%	23.9%	21.8%	▼	他人資金は自己資金を上回っていない。

※『同系統』とは、人文科学系単科大学を持つ大学法人24法人の2012年度の平均値（私学事業団まとめ）

3.3.2 収支計算書関係比率

観 点	比 率 名	算 式		2009 年度	2010 年度	2011 年度	2012 年度	2013 年度	同系統	良 い	本学院の傾向
経 営 状 況 は どう か	帰属収支差 額比率	<u>帰属収支差額</u> 帰属収入	全体	7.6%	10.6%	6.0%	6.5%	8.8%	1.7%		2 0 0 8 年度から 6 年連続 して収支差額 1 億円を突破 できた。昨年は耐震改修補助 金による嵩上げもあり。
			大学	9.8%	8.8%	7.8%	5.5%	5.6%	3.9%	△	
			中高	7.1%	14.2%	6.9%	8.5%	13.7%	-0.1%		
			幼稚園	15.8%	7.8%	5.0%	10.8%	3.6%	3.3%		
収 入 の 構 成 は ど う な っ て い る か	学生生徒等 納付金比率	<u>学生生徒納付金</u> 帰属収入	全体	63.6%	65.9%	65.6%	66.1%	63.2%	70.7%	△	各学校とも学生生徒数を確 保できており安定している。
			大学	74.5%	80.3%	78.0%	82.2%	78.9%	77.3%		
			中高	56.8%	57.4%	57.8%	56.5%	53.6%	54.9%		
			幼稚園	38.0%	37.2%	36.4%	34.5%	33.9%	52.8%		
	寄付金比率	<u>寄付金</u> 帰属収入	全体	2.1%	0.7%	1.3%	0.8%	0.2%	4.2%	△	9 0 周年募金を開始したが、 比率に影響するに至ってい ない。
			大学	1.0%	0.7%	0.8%	0.8%	0.8%	2.7%		
			中高	3.1%	0.6%	1.6%	1.0%	1.1%	1.4%		
			幼稚園	0.9%	0.9%	0.8%	1.9%	1.8%	2.1%		
支 出 の 構 成 は 適 切 で あ るか	補助金比率	<u>補助金</u> 帰属収入	全体	24.7%	26.8%	23.7%	20.2%	20.7%	15.5%	△	中高の経常費補助金が予想 以上に多く、大学の経常費補 助金減少を補うことができ た。
			大学	12.5%	12.8%	9.5%	11.9%	10.8%	9.6%		
			中高	32.6%	35.3%	33.0%	34.8%	38.7%	35.6%		
			幼稚園	53.4%	55.2%	56.2%	56.8%	56.0%	32.4%		
	人件費比率	<u>人件費</u> 帰属収入	全体	62.9%	61.0%	64.2%	61.6%	61.4%	60.4%	▼	大学は教員増で悪化。全体と しても金額はじわじわ上昇 している。
			大学	62.7%	61.5%	64.6%	61.8%	65.3%	56.3%		
			中高	62.7%	59.7%	63.1%	61.2%	57.5%	66.5%		
			幼稚園	66.1%	71.9%	74.2%	67.6%	74.2%	63.9%		

(つづき)

観点	比率名	算式		2009 年度	2010 年度	2011 年度	2012 年度	2013 年度	同系統	良 い	本学院の傾向
	教育研究経費比率	<u>教育研究経費</u> 帰属収入	全体	20.0%	19.4%	20.3%	22.0%	20.6%	26.5%	△	耐震改修補助金による収入増のため比率が悪化した。
			大学	21.9%	23.1%	21.9%	27.0%	23.7%	28.5%		
			中高	18.9%	16.8%	19.2%	18.6%	18.6%	26.4%		
			幼稚園	15.1%	17.6%	17.5%	17.1%	16.6%	30.3%		
	管理経費比率	<u>管理経費</u> 帰属収入	全体	8.5%	8.2%	8.7%	9.2%	8.5%	9.9%	▼	昨年より改善した。更なる改善には構造的対策が必要。
			大学	5.4%	6.4%	5.6%	5.7%	5.3%	9.8%		
			中高	9.6%	8.0%	9.4%	10.1%	8.5%	5.3%		
			幼稚園	3.0%	2.6%	3.3%	4.4%	5.6%			

※『同系統』とは、次のカテゴリの2012年度の平均値（私学事業団まとめ）

全体	人文科学系単科大学を持つ大学法人	24	法人
大学	人文科学系単科大学	27	大学
中高	大学法人に属する生徒数600～1200人の高校	22	22校
幼稚園	大学法人に属する幼稚園	31	5園（幼稚園のデータだけは2011年度）

3.4 その他

3.4.1 有価証券の状況

区分	銘柄	帳簿価額	表示科目
債券	三菱東京ＵＦＪ銀行劣後債	1,000万円	退職給与引当特定資産
株式	キリスト新聞社	5万円	有価証券

3.4.2 借入金の状況

借入先	借入残高	利率	担保等
公的金融機関	5,831万円	1.8%	あり
市中銀行・信用金庫	5億643万円	0.985～2.2%	あり

3.4.3 学校債の状況

学校債は、発行していない。

3.4.4 その他

3.4.4.1 寄付金の状況

寄付金の種類	寄付者	金額	摘要
新入生寄付金	保護者	296万円	減価償却引当預金へ
一般寄付金	保護者	97万円	卒業(園)記念寄付金
	保護者、団体	36万円	行事等教育活動支援
特別寄付金	保護者、企業、教職員	1,598万円	90周年記念事業寄付金
	理事	30万円	ルーテルアートアカデミー支援金
	日本教育公務員弘済会	10万円	図書購入
	旧職員、企業	7万円	教育活動支援等

全体で2,075万円の寄付金をいただいた。その内訳は上の表のとおりである。

これとは別に、昨年度に企業から受配者指定寄付金として私学事業団に寄付していただいたが、年度末時点で本学院にまだ入金していない寄付金が、27件・724万円ある。この寄付金は、事業計画に基づいて受配手続きを取る予定である。

新入生寄付金は、中学、高校及び大学の新入生保護者に寄付をお願いし、多くのご協力を頂くことができた。

寄付者の皆様には、心から感謝申し上げる次第である。

3.4.4.2 収益事業の状況

収益事業は行っていない。

3.4.4.3 関連当事者との取引

関連当事者との取引はなかった。

財務の概要・付録 学校会計について

本学院の会計は、「学校法人会計基準」に基づき、以下の三種類の計算書類を作成しております。これらについて、本学院の仕訳方法を踏まえてご説明致します。

資金収支計算書 とは・・・

毎会計年度、当該会計年度の、学院の諸活動に対応するすべての収入及び支出の内容、並びに、当該会計年度における支払資金（現金及びいつでも引き出すことができる預貯金）の収入、及び支出のてん末を明らかにするものです。企業会計で言うキャッシュフロー計算書に相当します。

主な科目の内容は、以下の通りです。

- 【学生生徒納付金収入】 授業料収入、入学金収入、施設費収入等の納付金
- 【手数料収入】 入学検定料収入、中高の進路模試の試験料、大学の各種検定試験料、在学・卒業等の証明手数料等
- 【寄付金収入】 寄付者が使途を指定する特別寄付金と、指定しない一般寄付金。
- 【補助金収入】 経常費、施設整備等の全ての補助金。
- 【資産運用収入】 受取利息収入と、学内施設や阿蘇山荘利用等の施設設備利用料収入。
- 【事業収入】 中高の寮活動並びに幼稚園のスクールバス利用等を計上する補助活動収入や、幼稚園の保育料等の収入、大学で行う公開講座収入、韓国提携大学の学生を受け入れる受託事業収入等。
- 【雑収入】 退職金団体交付金収入や、大学のボランティア体験の体験学習収入、大学科研費の間接経費収入等。
- 【前受金収入】 前年度の3月までに受け入れた収入で、当年度になって入学金や施設充実費に振替えられる、資金収支計算書特有の科目です。
- 【その他の収入】 預り金受入収入や仮払金回収収入など、短期的に精算される収入で、雑収入と違い、消費収支計算書に影響しません。
- 【資金収入調整勘定】 収入として計上したが未収となっている期末未収入金や、前受金として前年度までに受け入れた収入を、当年度に本来の科目に計上した前期末前受金等を調整する科目で、マイナス表示します。
- 【教育研究経費支出及び管理経費支出】
経費支出は、教育研究に用いるものとそれ以外に分けています。
- 【施設関係支出】 土地支出、建物支出、構築物支出、建設仮勘定支出、施設利用権。
- 【設備関係支出】 教育研究用機器備品やその他の機器備品、図書、車両等。
- 【資産運用支出】 特定預金や特定資産への繰入支出や有価証券購入支出等。
- 【その他の支出】 資産に計上する支出で、前払金支払支出や仮払金支払支出、また、負債の支払いとして前期末未払金支払支出や預り金支払支出等。
- 【資金支出調整勘定】 支出として計上したが未払いとなる期末未払金や、前年度までに支払っている経費を当年度に本来の科目に計上した前期末前払金等を調整する為の科目で、マイナス表示されます。

消費収支計算書 とは・・・

当該年度における学院の諸活動の計画を、消費収入及び消費支出の内容と収支の均衡状態とを明らかにし、財務状況が健全であるかどうかを計算・表示するもので、企業会計の損益計算書に相当しますが、「基本金組入れ」を表示する点が異なります。

具体的には、「帰属収入」（借入金のような学院の負債とならない学生生徒納付金、補助金、寄付金等）から「基本金組入額」を差引き（この金額を「消費収入」と言います）、人件費や経費等の「消費支出」との均衡状況を示します。科目の多くは「資金収支計算書」と同じです。

消費収支計算書だけにみられる主な科目は以下の通りです。

【現物寄付金】 資金の受入れがないので消費収支上にしか反映されません。

【退職給与引当金繰入額】 実際の退職金支払いに先立って、予め毎年度に負担額を消費支出として計上することが、消費収支の均衡を維持するうえで必要とされるものです。 具体的な計算方法は、大学の場合、期末要支給額を基にして、私立大学退職金財団に対する掛金の累計額と、交付金の累計額との組入調整額を加減した金額を全額計上。大学以外の教職員に係る退職給与引当金については、期末要支給額から、(社)熊本県私学教育振興会よりの交付金相当額を控除した金額を全額計上。

【減価償却額】 固定資産のうち建物・構築物・機器備品などは、時の経過により価値が減少するものとして減価償却を行い、取得原価を毎年度の消費支出に費用配分しています。学校法人会計基準では、全て定額償却です。

【資産処分差額】 不動産などを売却し、その代価が帳簿残高を下回った場合、その差額を計上。また建物・構築物などの取壊しや、使用不能になった機器備品を除却処分した場合、処分時点の帳簿残高を計上。

【基本金組入額】 学校法人が諸活動の計画に基づき、教育研究の維持・充実に必要な校地、校舎、機器備品、図書、現金・預金などの資産を継続的に保持するための金額であり、帰属収入から組入れた金額で、下表のように第1号基本金から第4号基本金までがあります。

第1号基本金	施設（土地、建物等）・設備（機器備品、図書等）の取得額、及びその取得のために借り入れた資金の返済額を組入額として計上
第2号基本金	計画に基づき先行組み入れた金銭等の額
第3号基本金	周年記念奨学基金等として継続的に保持・運用するために組み入れた金銭等の額
第4号基本金	必要な運転資金を常時保持するため、恒常的に保持すべき資金として基本金に組み入れる額

※基本金と資本金：「基本金」とは、企業会計の資本金とは異なり、学校法人会計独自の計算構造で、学校法人がその諸活動の計画に基づき、必要な資産を継続的に保持するために帰属収入から組み入れた金額です。

貸借対照表 とは・・・

会計年度末における学校法人の財政状態（ストック）を表したものです。基本金と消費収支差額の合計額が、学院の正味財産で、企業会計の資本の部に相当します。従って、
「資産＝負債＋基本金＋消費収支差額」となります。

	資産の部	負債の部
大科目	固定資産	固定負債
中科目	有形固定資産	長期借入金
小科目	土地	退職給与引当金・・・
	：	流動負債
	その他の固定資産	短期借入金
	借地権	未払金、前受金・・・
	出資金	
	：	基本金の部
	流動資産	第1号基本金
	現金預金	第2号基本金
	未収入金	第3号基本金
	：	第4号基本金
		消費収支差額の部
		翌年度繰越消費収入超過額
		(又は翌年度繰越消費支出超過額)

←正味財産

- 【固定資産】 耐用年数が2年以上の有形固定資産（土地・施設・設備・図書等）と、保有期間が1年を超えると見込まれる有価証券、債権などの資産のこと。
- 【流動資産】 現金預金・未収入金・前払金・仮払金等。
- 【固定負債】 長期借入金・退職給与引当金等。「退職給与引当金」は、教職員に将来退職金として支払うべき退職金を、負債として認識するもの。中高・幼稚園と大学とでは引当金の計算方法が違っている為、それぞれに計算して計上しています。
- 【流動負債】 短期借入金・未払金・前受金・預り金・仮受金等。